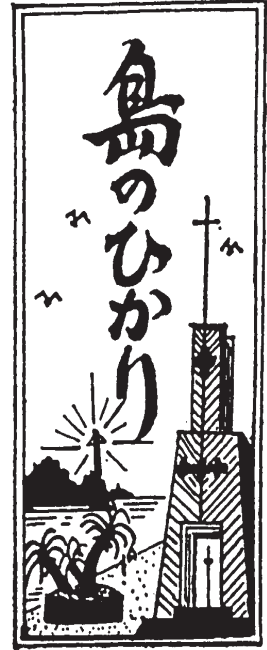




下五島地区巡礼半泊教会に集う（6月2日）

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>

発行

カトリック浦頭教会  
 広報委員会  
 五島市平蔵町2716  
 TEL 0959-00072  
 印刷・(株)才津印刷所

## シノドス（長崎大司教区 代表者会議）

### への道

主任司祭 岩崎 晋吾

道がはっきり見えてこない。だから目的へ向かって進むことができない。先の見えない道に進む場合、案内役がいてくれればよいのですが。

「シノドス」という言葉を聞いて約二年が経とうとしていますが、何をどうするのか未だ分からずじまいという感じでした。どこに向かって歩んでいるのか、今どの地点にいるのかなど、不明のまままでこまで来たという思いを多くの人が持っています。しかし、そのシノドスが来年度開催されます。

先日、やっとその道が明らかにされました。「シノドスの基本理念と指針」が出されたのです。本来、指針と理念は最初に示されるべきだったのでしょが、もう今になってはそんなこと言っておれません。この指針と理念

をもとに歩み出さなくてはいけません。

現代の日本社会の中にある教会は、宗教的な問題のみならず、この日本が抱えている様々な問題と対峙していかなくてはなりません。なぜならば、社会と教会とは境界線がなく、お互いに関連し、影響し合っているからです。少子高齢化社会と教会、経済優先社会と教会、自死国日本と教会、暴力、いじめ、虐待と教会など、教会は問題を感じておりながら、これらのことに福音の視点で解決しようとする考え、方法、実行が足らなかつたと言ってもよいでしょう。

特に、長崎の教会は過去の信仰は大切にしようという視点はあります。これは大切なことではあります。しかし、これからは同時に、現在と未来の諸問題に取り組む教会の愛の表現が必要になってくると思われまます。

主日のお知らせの「連載の欄」で、少しずつシノドスの指針と理念を紹介していく予定です。

# 岩崎神父様誕生会と守護の聖人祝う

七月七日、世間では七夕を祝います。浦頭教会では教会の守護の聖人である、聖ペトロ・聖パウロのお祝日は六月二十九日でした。そして、岩崎神父様の誕生日は七月六日でしたが、両方のお祝いが七月七日の日曜日、午後五時より神羊館に於いて開催された。

神父様は四十九歳の誕生日で、「来年からは、守護の聖人だけを祝ってほしい」との言葉があり、大変恐縮しておられたようです。会場には浦頭信徒は勿論、五島市長をはじめ、役所の方々、



小中学校の校長、地域の方々、総勢七十名程参加していた。



そして、テーブルを飾る物はシメオン・アンナ友の会の方々の刺身とか、手料理などでにぎわっていました。婦人会も準備等で協力、沢山の方々の奉仕によって、この会を盛り上げて頂きました。評議会書記の入口信さんの司会によって始まり、議長の本村義則さんの挨拶、次いで婦人会長の川口登久代さんより花束の贈呈、神父様の感謝の言葉、壮年会々長の浜口告公さんの乾杯の音頭でやっと冷たい

ビールを飲む事が出来ました。この日は午前中、壮年会、婦人会、シメオン・アンナ友の会による、堂崎教会周辺と中村長八神父様の生家の草刈り作業と多忙だっただけに、会場の熱気も手伝ってビールの味は格別でした。

神父様はミサの中でも、会場でも、何度も「来年は五十歳になるので、もう私の誕生会は止めて頂けませんか。守護の聖人だけを祝いましょう」とおっしゃっておられました。来年になってみないとわかりませんネ……。ともあれ、今回、四十代最後の誕生日おめでとうございます。これからも健康に留意されて、私達信徒の御指導を宜しくお願い致します。

## マリアに倣って

### 井持浦ルルド紀行

江口初子

新緑の候、空は快晴。いつものようにロザリオの祈りと共に、教会下をマリア行列は出発。見



渡せば約三〇〇人の中に子供は数名。目立つは花まきの少女、花びらに思いをこめパラ：パラ：私が若ければドレスを着て？

など妄想する中、ルルドに到着。ミサの聖歌はシスターと浦頭が担当。マリアに届けと皆の声か風のにり追いかけてきた。神父様には天からの熱い祝福の光が！そして先人の思いを子孫へと語らせる。無事終わった。一番安堵したのは井持浦の信徒さん。四月から神父様が福江より通い、大変だ！

お土産は、ルルドの聖水とメダイと本「十字を切る」題が良かった。私もこんなおぼせ者の仲間に入れるよう、マリア様に祈ることにしよう。もっと、もっと私を強めて下さいと…。最良の一日に感謝。

## シエガレパリ外国宣教会 日本管区長講演

五月二十六日、福江教会において、シエガレ・パリ外国宣教会日本管区長による講演が行なわれた。

講演の内容は「第二バチカン公会議の今日的意義」

公会議は、一九六二年から一九六五年にかけて。その波は、衝撃的だった。当時の浦頭教会の神父様は松下神父様。威厳のある朗々としたラテン語が、教会堂に神秘性を与えながら、響いていた。予感があった。大人達が教会が大きく変わって行くというふうな話しを、巷で話してしていた記憶がある。

「こっち」を向いて、神父様がミサを始めた。それも「日本語で。」

シエガレ管区長は、第二バチカン公会議が、日本を含め、世界のカトリックに大きな影響を与えた事と共に、それ以後の教会に大きな変化があった事を説

明された。

公会議は、当時の信仰が「遺産を守る」ことと、要理の暗記に偏っていたのを、聖書の重要さという原点にたちもどる必要があること。ミサの自分の言葉による参加。それが信徒を画一的でなく、多様性を尊重した上の一致につながり、そのサポートとして、対話がより重要性を増す事を指摘した。

教会に自由の息吹きが入った事で、教会は閉鎖的で神秘的なものから、現代社会との共有を求めて、開放されたものとなった。又、公会議以後に現われた現代情勢とのマッチングの必要性も説いた。

最後に、公会議とそれ以後の日本の教会のあり方に触れ、日本の和の精神とコイロニア（イエス・キリストと共に生きる）の実践にずれがある場合も見られる事を説明された。

シエガレ  
日本管区長―



## 聖母祭

### 平和のほろお祈り

五月十二日（土）、たくさんの保護者、地域の方々に参加していただき、マリアさまと共に祈る、園児たちの聖母祭が行われました。やはり花形は、花まきの女の子。白いドレスに花かごを持ったばら組さんは四方からカメラを向けられて、始める前から嬉しそう。ばら組の女の子たちも、きりりと顔を引き締めて、十字架を持ち、マリア様を担ぎ、小さい組の園児たちは、マリアさまのご像の後を大きな声で歌い祈りながら行列しました。

ホールでは、持ち寄っていただいた美しい花束を園児たち、参加してくださったみなさんでマリアさまにお捧げしたあと、岩崎神父様に、嬉しい時も、悲しい時も、いつも神さまとマリアさまは一緒にいてくださるとお話いただきました。

世界平和のため、家族のため、

おじいちゃん、おばあちゃんのため、

みなさんの思いを込めて、みんなの幸せのために、マリアさま

と共に共同祈願をささげ、温かい祈りのひと時を過ごすことができました。

共に祈ってくださいました皆様ありがとうございました。来年はもっとたくさんの方々と一緒にお祈りできたらと願っています。



## 信徒総会終る

平成二十五年度浦頭小教区信徒総会が、四月二十一日、二番ミサ後に聖堂内にて行なわれた。鍋内誠次副議長の進行のもとに会は進められ、竹山議長の挨拶、続いて岩崎主任司祭の挨拶がなされた。そのあと総会議案に基づいて、平成二十四年度行事経過報告がなされた。

次いで木口経済さんより、収支決算と予算が報告された。次いで赤尾経済さんより、堂崎天主堂資料館の収支決算が報告され、すべて承認された。

続いて今年度より新議長に選ばれた本村義則さんより、平成二十五年度の年間行事予定が報告された。最後に来年、浦頭小教区45周年を祝うに当り、一戸当り七万円の拠出金をお願いしているが、平成二十五年八月までに拠出金の一部を納金してほしいとのお願いがあった。教会裏の駐車場、トイレ建設、水道、

排水管工事、案内板の設置等の計画案が発表された。この事業に当っては、実行委員会を発足させる。会長に岩崎神父様、委員長に本村議長、委員として役員会のメンバーが当たる事を報告し、無事に総会を終る事が出来た。

### 5月の夕べに

### ギターとソプラノの調べを

山口修さん・純子さん夫婦ユニットによるギターと歌の共演コンサートが五月二十三日、七時より行なわれました。

楽曲は「ウエディングドレス」や「上を向いて歩こう」等。一般の人々も御存知の曲柄で、聴衆の人数といい、割と親しみやすいひとときでした。

また、「アヴェ・マリア」の演奏や歌声を聴いているうちに、永年、小教区の信徒の皆に愛され、シスターへの誓願式も約二十日前に終え、亡くなった彼女の顔はまさに「マリア様になった」と誰かが囁いていたように、

素晴らしい、素敵顔を想い出し、こんなにも顔が変わるものかと改めて神のみ出来るわざ、彼女自身の心の清潔さがそのようになったことでしょう。

一つの言葉、一つのメロディが人の耳に入ると、色々な感情、情景が浮かびあがります。

音楽の効用は、このようなことから始まるように思います。

「復興・絆」と言えば、歌は「花はさく」この曲がコンサートの最後の曲でした。約一時間余りの聖母マリアの月の夕刻の「ひととき」を、皆様に感謝のうちに。



## 千の風になつて

夏は祖先を思い出す季節でもある。お盆には、長崎の精霊流し等、各地で亡くなった人を偲ぶ多くの行事が行なわれる。

浦頭のお墓も、その頃には急に賑わいを見せ始める。遠くに平蔵地区のお墓辺りから聞こえる「ヒュー」という花火の音を聞きながら急坂の石段を登っていく足音が、増えていく。

石段を一步ずつ踏みしめ、ある人は、横目に立ち並んだ十字架を見やり、この墓は何々家の墓だったなあーと確認する。又、ある人は、遠く、近くに聞こえる蝉時雨せみしぐれに思いを馳せ、「あー、あの時も夏の盛りの時だったなー」と急に鮮やかな記憶がよみがえる。

たどりついた墓石の前に立ち、祈りを捧げ終り、ふり向くと、下方に里山の情景が広がる。「さー」と一陣の風が、(声にも似て)通り過ぎて行った……。

## 福祉部 ボランティア創設

教会が地域に対して、奉仕の活動を提供できないか。その取り組みが、今、静かに、けれどしっかりと始まった。

二月二十四日、福江教会で社会福祉の分ち合いが行なわれ、部長・紙崎神父様のもと、浦頭教会の岩崎神父様も出席し、正式な名称が「よきサマリア人会」。最初は浦頭が先導をきる形で、ミサにきたい信徒を、教会にさせようという形となって動き出した。対象者は日曜日のミサに与かるのが困難な信徒、又、平日のミサにも与かるのを希望する信徒。対象者の家庭に訪問し、送迎を行なう。現在、対象者十四名。送迎者八名。又、協力者も六名、そして小学生にも協力してもらおう事がある。

現在、三回目の奉仕活動が終わり、ボランティアの人達に、「少し悪いなー」と思いつながら、感謝の気持ちでミサに与かる事をうれしく感じる人が多

いと聞く。日程的には、毎月第一火曜日、午後五時三十分、送迎ミサを始めている。近い時期には、福江教会も活動を始めるとの事。

他に、登校時間に合わせ、立哨活動も続けている。

カトリックの愛。隣人愛はボランティア活動にも結びつく。活動に奉仕する人達は、天国に花を飾り、奉仕を受ける人達は、本当に「ありがとう」と感じる事で、天国に「微笑み」を届ける。

奉仕活動が、少しずつ広がる事を願いたい…。



## 下五島地区教会巡礼

六月二日、下五島地区教会巡礼が福江↓宮原↓半泊↓浦頭教会のコースで行われました。

当日は百名以上の多くの方が集い、駐車場の関係から乗り合わせて巡礼しました。各教会では、ロザリオ一連を捧げ、教会の歴史、現在の状況について説明を受け、最後に浦頭教会にてミサを行い巡礼を終えました。

宮原教会は一見民家に見える佇まいであり、あまり広くない建物である為、当日は窓の外からも巡礼させて頂きました。



宮原教会にて



木口利光氏による半泊教会の説明

続く半泊教会は、目の前に入江が広がり石垣に囲まれた建物ですが、信徒が三名である事に驚かされました。

先祖からの受け継いだ教会は現在少子高齢化、信徒数の減少により維持していくのが大変であるという事を「理解」してはいましたが、今回の巡礼を通して「経験」する事ができました。また同時に、参加者全員で共有できたのではないかと思います。世界遺産を目標に一丸となって取り組んでいます。一信徒としても考え、行動に移す力があればと思います。

# 聖体賛美式

信仰年、教皇フランシスコ様より六月二日に聖体賛美式を執り行うようあり、浦頭教会では八時のミサ後に行いました。

御聖体であるキリストを賛美する為、献香、讚美歌を歌いました。

普段ミサに与る時に頂いている御聖体ですが、キリスト御自ら信者一人一人を御聖体を通して、祝福されている事に感謝したいと思えます。



# 宮原教会 参道改修



四月初め、宮原教会参道の階段改修が行われました。以前の石段は大きさ、並びがばらばらで登り降りが大変でしたが、コンクリート階段にして、一段の高さ、幅をバランス良くしています。



# 奉仕作業

七月七日、梅雨明けまじか、生き生きとした草たちを、沢山の人が順序よく刈って行き、それをトラックに積み込む。それぞれの役割が決まっているかのような、スムーズな作業。

今回は、ボランティアの参加があり、男性が海岸のゴミ拾い、女性はレリーフの前の草取りをしてもらいました。

壮年会、婦人会で堂崎教会、シメオン・アンナ会で長八神父様の記念植樹周辺の草刈作業で、アツという間にきれいになりました。



# お詫び

四月号で役員名簿を掲載しましたが、その時点で役員が決まっていなかったため、今回お知らせします。

## 〔地区委員会〕

委員長 梅木 征至  
会計 浦 勝己  
シメオン・アンナ友の会

副会長 入口 義則

## 〔典礼委員会〕

委員長 小田 哲也  
副委員長 赤尾 克子  
委員 員 赤尾 弘樹(前号で洩れていました)

※前号の移動信徒

◎川口裕樹↓川口祐樹◎

# ありがとう

今回も次の方々より沢山の御芳志を頂きました。感謝!

大阪府 赤崎 美奈子 様  
東京都 出口 登代美 様  
福岡県 赤崎 岩光 様  
長崎市 濱口 末明神父 様  
長崎市 守口 光雄 様  
丸亀市 梅木 正 様

# おたより

いつもSr・川口スエに島のひかりをご恵送下さいまして、ありがとうございます。Sr川口は昨年三月に逝去致しましたのでお知らせ致します。浦頭教会のご発展を祈りながら感謝のうちに。

仁川本部修道院

院長 Sr松永 和子

ある神父様から、シスターは五島出身でしたね。蟻のことを何とか言ったネ：ちょっと考えて、「スガレ」と言っていた事を思い出して「スガレ」といって「いました」と答えると、そうそう、昔の宣教師が、蟻は共同でいのちのために一生懸命働く。信徒も共同で、土の上を神様にスガリながら生きていく事が大切ですね。と、信仰の年に蟻が私達に語ってくれる様に思ったので、一筆認めました。島のひかりも大変と思いますが、頑張ってください。鎌倉市 聖母訪問会

大船修道院 Sr川口マツエ

今度四月より転任になりました。皆様方のご活躍と御奉仕に感謝しております。どうぞこれからも教会のため、よろしくお願い致します。皆様方のご健康と教会の発展のためにお祈り致します。熊本県天草市

大江修道院 Sr赤尾スミエ

いつもご苦労様です。原稿集め、編集作業、やってみた人でないとわからない大変な作業です。しかも、日中のそれぞれの仕事が終わってから活動されていることを思うと、本当に頭が下がります。しかしそれも大切な使徒職です。故郷のたよりを楽しみに待っている人たちがいることを思い起こしながら、任務を果たしてくださいませようお願いします。

長崎 濱口 末明神父様

編集の皆様、ご活躍いつもありがとうございます。これからもふるさとのニュースをお送り下さい。丸亀市 梅木 正

# 秘跡

《転入》

横山 宏 貞明

(大阪教区より)

小林 利彦 寿枝 美結 心咲

(東長崎教会より)

《帰天》

テレジア 赤崎 カ子

(四月二十五日 九十三歳)

テレジア 濱崎ヨシエ

(五月十日 八十歳)

マリア・マグダレナ

濱口フジエ

(六月十四日 八十五歳)

ヨゼフ 濱口 幸一

(六月二十三日 六十一歳)



# ふるさとだより

## 我家のカラス事情

我家はここ二、三年、夏みかん、八朔、ビワなどのふるさとの味を送れないでいる。なぜ？色ずき収穫という時にカラスの大群が根こそぎ、普段の家庭菜園も網を張らないと餌食に。近くの海のブリの養殖場を追われて今度は畑を荒らす。イタチごっこだ！五島市も鳥獣駆除をやっているのだから。H24年には、宮原教会の近くにイノシンが出現！シカも増加し迫りつつあるとか。

昨今、のどかな田畑の風景は少なくなり、カズラに巻かれ原野に。彼らにとって水飲場も、そこにいたカエルも、そして野山の果実までも減り、死活問題なのかも？

ともあれ、我家は今、ミニトマトの色ずくのを楽しみにしている。すでに十数個はカラスに食べられた。網を張り、脅しに黒いビニールのカラスもどきをぶら下げた。今度こそ私が食べるぞ!!あれ!カニも登ってきているぞ……。ヤバイかも!

# みんなでつかった勝利

白濱 祐太郎

自分たちの発している声が届かないくらい応援の中、僕たちは翁頭中学校に勝ちました。三セット目は正直、相手にとられたと思いましたが、だからひっくり返せたのは、最後まであきらめない心と、たくさん応援の人たちのおかげです。これから僕たち男子バレーボール部は練習を一生懸命に取り組んで、県大会で少しでも良い成績を残せるように頑張るので、応援よろしくお願いします。



奥中男バレー・激戦制す

# 男バレーに続け



五月二十六日と六月九日に五島市中総体が行なわれ、バレーボールでは大接戦の末、男子が優勝。陸上では、悪天候にも負けず多くの入賞者を出すなど、大活躍の奥中生徒でした。

## 【大会結果】

### ○バレーボール

男子 優勝 女子 一勝一敗

### ○陸上

- 2年男子 1500 m 2位 川端 歩
- 3年男子 1500 m 3位 川口 大輔
- 2年女子 800 m 2位 中村明日香
- 2年女子 4×100 mリレー 3位
- 女子砲丸投げ 3位 堂崎 みく

# ボランティアに参加して

小林 利彦

四月より親子四人で五島に暮らすこととなり、地域の行事に参加したいと思っていたところ、六月のトライアスロンの開催を知り、せっかくなので（選手ではなく）六歳になった娘とボランティアに応募しました。当日は雨模様で、娘が途中で飽きてしまうのではないかと心配しましたが、保育園のお友達と一緒に選手を応援し、最後の方では「ぎばれ〜」と五島弁で応援をしていました。娘の頑張る姿を見ることができて、楽しい一日でした。



右側 木口北斗君

# 編集後記

七夕の翌日。うっとうしい梅雨があけた。例年より二週間程早く、本気印の夏がやって来る。

“カー”と照りつける濃紺の青空に手をかざしながら、奥小の校門をくぐる。例年、ふる里だよりを賑わす、夏休みの行事の説明に、子供達・先生方の給食の時間を利用してもらった。本年度の子供達は、昨年より十名増えて四十四名。先生方も含めると、教室には入りきれない程で、活気に満ち溢れ、興味津々の眼が輝いている。

去年の夏は、浦頭の大蔵川で川遊びを行なった。EMだんごの投入の効果もあって、川には小魚も増え、今年の六月の螢の鑑賞会では、七十名程が川の辺に集まって、川面にほのかに揺れる光の群舞に酔いしれた。

今年も太陽が子供達に経験の季節をさし出す。“いざチャレンジ”

木口 重憲